

東洋大学校友会埼玉県東部支部会報《リーフレット版》

彩の国 さいたま 第9号

作成/2021年9月7日 (一社)東洋大学校友会 埼玉県東部支部 広報部

この「彩の国さいたま」リーフレット電子版は、校友会埼玉県東部支部の最新の活動状況、企画案内、会員の動向などの情報を、支部会員の皆様に年数回、不定期でお届けするものです。速報内容は、支部役員および会員の皆様から頂戴した情報を写真とともにまとめています。なお、リーフレット版は、画像電子版として作成していますので、東洋大学校友会HPの支部ブログにも掲載することを基本にしています。支部のメンバー登録会員の皆様にも配信します。奮ってお読みいただきたく存じます。

支部広報担当(副支部長) 黒井 登起雄

《寄稿》

川越キャンパスの今昔と
思い出のキャンパス初めて物語(2)

副支部長 黒井 登起雄
(昭和46年院修土木)

【ブローグ】



前報(リーフレット電子版第8号)で述べたように、昭和40(1965)年に私は、東洋大学工学部(土木工学科)に入学し、

川越キャンパスにおいて(大学院修士課程を含めて)6年間を過ごした卒業生です。キャンパスを離れてから50年の時間が経過しました。工学部(川越)キャンパスの草創期に在学していましたので

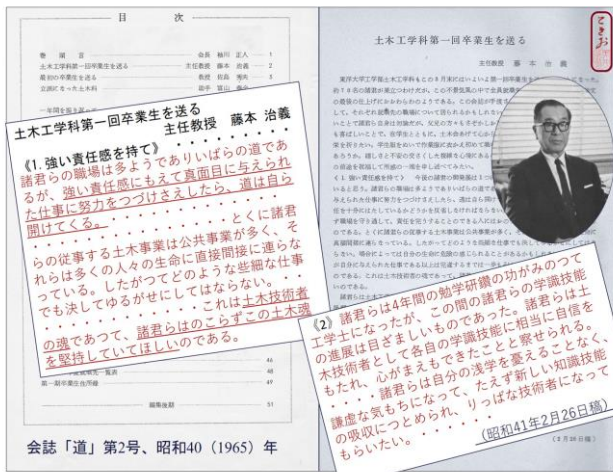


写真-2 「土木会」の会誌「目次」と「寄稿(主任教授)」

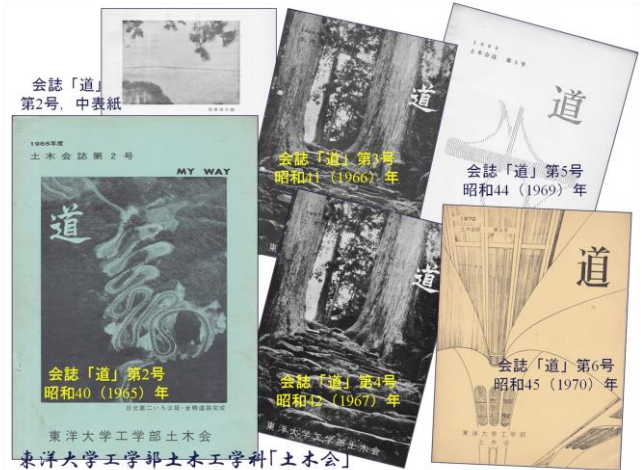


写真-1 土木工学科「土木会」の会誌(1965年第2号)など

(工学部5期生(土木工学科4期生))、発行された会誌・機関紙・部報*1を持ち合わせており、これらを参考資料にして、「土木工学科同窓会(現在の『土木・環境・デザイン学科同窓会])」「東洋大学硬式庭球部・テニス部」の始まり(初めて)物語に触れていきたいと思えます(大部分の工学部卒業生および現役の在学生にとって、初めて知ることになるキャンパス情報と思えます)。私自身にとっても、これらの話は、非常に古く、思い出し、整理するのに大変苦労致しました。

【土木会の始まり】
土木工学科は、昭和37(1962)年に工学部(川越キャンパス)に設置され、昭和41(1966)年に最初の卒業生を輩出させています。私が入学したときは、土木一期生が4年生でした。「土木会」は、昭和38(1963)年頃に土木工学科内に作られた学生の研究サークル(自主的なゼミナールに相当)で、学生の土木技術者としての技術と意識向上を目指して発足し、「測量研究会」「ボーリング研究会」などに分かれて活動していました(私は運動部に居りましたので、土木会は疎



写真-3 土木同窓会の機関紙「いしずえ」(昭和45年発行)*2

遠でした)。
「土木会」会誌の「道」*1には、当時の教員の皆様からの寄稿も多く寄せられています。寄稿タイトルと執筆者は、次のとおりです。
①『土木工学科第一回卒業生を送る・主任教授藤本治義(写真・2参考)』『最初の卒業生を送る・佐島秀夫教授』『立派になった土木科・富山泰全助手』(以上、第2号)
②『所感・主任教授藤本治義』『就職

について・笹尾義一講師』（以上、第3号）

③ 『初心忘るべからず・前任教授 藤本治義』『民族的生命力・桑原弥寿雄 教授』『就職について・笹尾義一講師』（以上、第4号）

④ 『二つある事の効用・岩崎訓明助 教授』『雑文・萩原国宏助教授』『勉強 ということ・赤木俊充助教授』『桑原先生の思い出・笹尾義一講師』『雑文・新藤静夫講師』（以上、第5号）

⑥ 『無題・高田孝信教授』『就職の件・萩原国宏助教授』『昔の話・笹尾義一講師』（以上、第6号）

土木工学科の草創期（第一期から第四期頃まで）の卒業生にとっては、懐かしい教員の名前（写真・4）を目に留めたり、読んでみたい寄稿文があるのではな



写真-4 草創期（昭和44年まで）の懐かしの教員（卒業アルバムより）



写真-5 昭和45年の土木工学科同窓会の発足（卒業アルバムより）

【土木同窓会の始まり】 『土木同窓会』は、昭和44（1969）年11月3日（工学祭）、名誉会長に本間 仁教授（工学部長）、土木工学科の諸先生に顧問をお願いして承認・発足致しました（写真・3、第一回同窓会機関紙）。この時、同窓会は、規約の整備に取り掛

かった段階で、組織が整っておらず、各卒業期（第一〜四期）の代表幹事（役員）が中心になって運営していました（写真・5）。私も、土木工学科第四期卒業生（大学院修士1年）として高田清美氏（故人）とともに、幹事を務めて運営に協力していました。創刊した同窓

機関紙「いしずえ」第3号以降は、発行不明です。ご存知の方は、教えて下さい。
*4 昭和46（1971）年に就職（東京都立大 学助手）し、東洋大学を離れました。
【エピソード】 土木工学科「土木会」「土木同窓会」の始まりを懐かしく思い出しながら綴ってみました。それぞれは、社会状況の変化とともに役目と取組みが変わってきていると思われま

す。土木工学科も、平成7（1995）年に環境建設学科へ、平成21（2009）年に（理工学部）都市環境デザイン学科に科名変更を繰り返して現在も続いています。「土木同窓会」も、「土木・環境・デザイン学科同窓会」として活動を続けています（写真・6）
*5 「土木・環境・デザイン学科同窓会」の活動状況、近況報告、連絡事項などは、同窓ホームページで確認できます。
<http://royo-ob.sakura.ne.jp/>

いでしょうか？ 如何でしょうか？ *3 昭和41（1966）年の会誌「道」には、(社)土木学会の「関東土木系学生会」に加盟した学外活動なども含めて、学生の産学協同の取組みや、土木会の工学祭展示などの学内活動なども報告されています。その他に、研究会サークル（測量研究会、ボーリング〈試錐〉研究会、水理研究会）の報告・案内、課題報告（夏季実習、冬休み課題）、見学会報告と感想なども丁寧に、詳細に掲載されています。研究サークルや、産学協同授業の環境にあたる夏季実習報告は、会誌「道」の特徴的な記載内容となっていたよう

です。
*1 土木会誌「道」創刊号の発行は、昭和39（1964）年と思えますが、残念ながら私の手元にはありません。お持ちの方はご連絡を下さい。
*2 写真・3の『土木』の揮毫は、土木工学科会議室に額に入れていたものと思われま

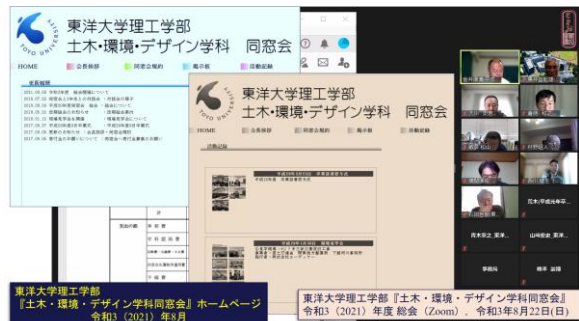


写真-6 理工学部「土木・環境・デザイン学科同窓会」ホームページおよび令和3（2021）年度 Zoom による総会（2021.8.22）

は、活動状況、近況報告、連絡事項などは、同窓ホームページで確認できます。
<http://royo-ob.sakura.ne.jp/>